



-発行-
秋田県南秋田郡大潟村字南2-2
秋田県立大学生物資源科学部
アグリビジネス学科
TEL 0185-45-2026(代)
印刷: 株式会社 八郎印刷
TEL 018-875-4005

アグリビジネス学科の今、 そして次へ

アグリビジネス学科長 重岡 徹

アグリビジネス学科同窓生の皆様、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。2023年度から学科長を務められていた露崎先生が体調不良とのことで、2024年6月から急遽学科長の任を代行することになった重岡徹です。着任間

もない当方が重責を負うこととなり本年度は不安な船出となりましたが、学生諸君をはじめとして教職員の皆様に支えられながら円滑な学科運営に努めているところです。

こうした年度始まりではありましたが、2024年



度も学科は大きく発展しています。2023年度の新生入生は49名、今年度は44名が入学しました。その中でも県外からの入学者が年々増えてきているのですが、これは秋田県立大学アグリビジネス学科の全国的な知名度が高まってきていることの現れではないでしょうか。一方で現4年生の就職状況も順調で就職率100%も堅持され、また大学院への進学者も昨年度が4名、今年度は5名が進学する予定です。学科設置から18周年を経て来春には同窓生も600名を数えるほどになり、その歩みは堅実で県立大学の中での存在感は言うに及ばず、秋田県そして東北地域の中でも確固たる学府となつてきているものと考えます。これもひとえに大潟キャンパスを築立っていかれた同窓生ならびに退職された教職員の皆様からの支えなしには成しえることではありませ

ん。改めて、御礼申し上げます。

ただ、皆様もご承知の通り昨今の我が国社会の少子高齢化の趨勢は、全国すべての大学に共通してこれからの学生数の確保を難しくし、如何に高校生に対してそれぞれの大学の魅力を伝え惹きつけるかが問われてきています。秋田県立大学にあつては県人口が100万人割れするなかで、これまで通りに学生数を確保していくことは他県に比べて極めて厳しいと言わざるを得ません。本学では2028年度を目途に生物資源科学部の改組に向けて検討を始めています。今日の高校生の農学へのまなざしを探り、学的興味や関心を惹起する新たな学科再編を目指しているところ

です。アグリビジネス学科もこの検討の渦中であり、ここ数年の入学人数の安定傾向に安穩としていることはできなくなっています。

こうした全学での改組・再編の動きの中でアグリビジネス学科では、これまで培ってきた分野横断的研究・プロジェクト教育・耕学一如などによる農学の府としての学科の伝統を踏まえつつ、時代が要請する新しいアグリイノベーションやアグリサイエンスを先導する学科への発展の道を示し、生物資源科学部再編の

柱となるべく活発な議論を重ねています。先行きはまだ見通せませんが、農業短大時代、短期大学部時代、そしてアグリビジネス学科時代という3つの時期を経て得られたアグリビジネス学科の魂は、新しい学科へと装いを新たにしても引き継がれていることは間違えありません。これからしばらくは大学全体が落ち着かない雰囲気となつてしましますが、それでも学生はそんな喧騒に惑わされることなく6つのプロジェクトそれぞれで真摯に勉学に励んでいます。学び舎の大潟キャンパスはますます老朽化が極まり継ぎ接ぎだらけの修学環境になってい

ますが、それにもめげずにDX、SDGs、フードビジネスなど最先端の技術を身につけるべく頑張っています。現場に即し、現場で考え、現場に即する学修成果であるプロジェクト成果報告会、卒業発表会も年を経ることに充実してきており、学年時の壁を越えた質疑応答も活発です。こうした学生の学びの姿を見るにつけ同窓生の皆様から連なるアグリビジネス学科の命脈を絶やしてはならないものと考えています。

今、大学は少子高齢化という世紀の波の中で難しいかじ取りを余儀なくされています。こうした波間の中で同窓生の皆様のご活躍こそが学生、教員の希望の明かりとなつていきます。

どうぞ皆様大潟キャンパスにお立ち寄りいただき、私たちを励ましていただければ幸甚に存じます。

同窓生からの近況報告

今回は畜産プロと政経プロの卒業生に近況報告をしていただきました。

14期
家畜資源利用推進プロジェクト
益子 佳緒里

14期生の益子佳緒里です。家畜飼養管理学を専攻してました。現在は秋田県の肥育農家で従業員として働いています。今の職場には、3年次にインターンシップに行ったことがきっかけで「ここで働きたい!」と思い、直談判をして雇っていただくことになりました。就活が早々に終わった私は、4年次の多くの時間を

11期
政策・経営マネジメントプロジェクト
戸松 眞緒

11期生の戸松眞緒と申します。この度、同窓新聞において近況を報告する機会をいただき、ありがとうございます。

*次号では作物プロと基盤プロの卒業生から近況報告をしていただく予定です。

退任にあたって 現場主義に徹した7年間



アグリビジネス学科
増本 隆夫

このたび退任される増本先生から寄稿いただきました。現場主義に徹した7年間、同窓生や学内外関係者の皆さまに大変お世話になりました。退任を迎えることができることに厚く御礼を申し上げます。ここでは7年間の思い出から現場主義に徹した教育と研究に関わる事柄を思い出してみたい。

大学の教育は、講義、演習、卒業論文などの形態がありますが、後者になるほど研究に近い内容になってきます。修論や博論はその典型だと感じます。私の属する分野が農業農村工学であることから、ここでは「現場主義」に徹してきました。主な対象地域を秋田県内に絞り、土地改良区、県庁・地域振興局、国の農業水利事業所、水系調査管理事務所等を、当時学生だった皆さんと尋ね、技術的課題は何か、解決できていない問題は何かを見出し、それをどのように解決し、新たな提案を行うことを方向として活動してきました。

3年生のプロジェクト演習では、5、9名の所属生でしたが、毎年平鹿平野地域にある右記組織を一泊で尋ねて話を聞き、加えて実務を行うコンサルタント技術者や県庁職員の方々に講師に現場の問題・課題を講義してもらいました。2年生への専門担当授業である「地域環境工学総論」でも、現場に近い話題からその分野を理解してもらおうと試みてきました。一方で、同じ2年生への「地域環境基礎工学」では、構造物学を教えることになりましたが、現場主義の実践だと考えリングを落とし地球の重力加速度を見出した研究者にちなんで、力の単位は「N(ニュートン)」で表すのだよといったはみだもの、試行期間で登録中の学生が、先生の授業は難しくよく分かりませんとあって登録中止をしていくのは閉口させられました。

他方で、右記の現場から見出した課題の解決には、最新の技術や科学を開発・利用することも重要だとの指導も行ってきたものの、教育としてどこまで実践できたかは定かではありません。しかし、研究室からの卒業生や修士・博士の修了生の多くが、全国でのコンサルタント技術者や公務員になって、最近では検討委員会等で責任ある立場で対応されている姿を見るにつけ、一教員として嬉しい限りです。引き続きのご活躍を期待しています。

各プロジェクトの近況

先進作物生産技術開発プロジェクト

(旧大規模農業経営プロジェクト)

卒業生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。こちら大潟村は、雪の季節を迎えており、上空から「クワツツ・グワツツ！」と白鳥の力強い鳴き声が聞こえてきます。今年度の「作物プロ」のメンバーは、3年生10名、4年生6名、教員4名です。この他に、アメリカで農業研修中の学生さん(1名)がおります。例年の通り、4月に、アグリイノベーション教育研究センターやゼミ室などで、3年生は実習・演習・実験を、4年生はプロジェクト卒業研究を開始しました。7月には、地域農業研修で、にかほ市と由利本荘市に出かけました。そして、土地利

家畜資源利用推進プロジェクト

(旧家畜資源循環農業経営プロジェクト)

今年度は山中が担当いたします。今年度の畜産プロジェクトは教員4名(横尾先生、渡邊先生(AIC)、佐藤先生、山中)と、3年生7名、4年生6名、大学院生(修士)2名で活動してきました。当プロジェクトでは、これまで10年以上にわたり短角牛の資源循環型畜産に取り組んでおり、令和3年からは本学で地域資源を活用して育てた短角牛として秋田県内の精肉店やレストランでも販売・提供していただけるようになりました。今年度は、食肉卸業者の株式会社大門商店らと連携して本学で生産さ

次世代農業基盤創成プロジェクト

(旧生産環境プロジェクト)

2024年度も増本、永吉、近藤の3教員、学部生11名、院生4名で、元気に充実した学習・研究活動を展開しています。夏の農業農村工学学会全国大会が弘前大学で開催され、りんごジュースやシールドを吟味しつつ、院生4名、卒業生も1件発表(ポスター受賞!)し秋田県立大の存在感を示しました。院生交流会では基盤プロジェクトが中心となり盛り上げました。3月に大潟キャンパスから初の博士學位を取得した技術者も県庁で活躍。11月の全国ため池フォーラムin秋田の運営責任者の一人として手腕を振

地域ビジネス革新プロジェクト

(旧アグリビジネスマネジメントプロジェクト)

同窓生の皆さんこんにちは。元気にお過ごしですか?今年度の「ビジネスプロ」は、学生が3年生6名と4年生7名、大学院生1名、教員が重岡先生、林先生、末永先生、酒井の4人で活動しています。重岡先生は学科長としてもお忙しい日々を送られています。プロジェクトでは、昨年度から対象地域を定めて調査を実施し、課題や振興方策について研究しています。昨年度の対象地域は男鹿市の加茂青砂地区で、昨年2月の現地報告会、夏の合宿で特産品の提案・試食会を行い一区切りとなりました(活動の様子はYouTubeでも公開されています)。今年度は秋田市河辺岩見三内の鵜養(うやしな)地区を対象としています。鵜養地区では新政治家と連携して農業不使用の

政策・経営マネジメントプロジェクト

(旧農業政策研究プロジェクト)

今年度の政策・経営マネジメントプロジェクトは3年生7名、4年生7名、大学院生7名、教員4名あわせて25名で活動しています。教員の異動はありません。3年生は輪読、統計演習のほか、4年生の卒業研究や教員の研究に関する調査への同行、大仙市での農業経営体調査を通じて、調査手法を学ぶとともに、自身の卒業研究を見据えて見聞を広げました。また、夏季合宿では岩手県葛巻町を訪れ、酪農振興やエネルギー自給に関する先進的な取り組みを視察しました。

文、大学院生は修士論文を執筆中です。卒業論文のテーマは、海外との産直、祖父母から孫への経営継承、新規参入者の理想と現実のギャップ、米の輸出、薬用植物の生産振興、搾汁事業の成立要件、高校における総合的な探究の時間の意義と多岐にわたります。また、要旨を政策経営マネジメントプロジェクトHPにアップしますので、ご覧ください。また、卒業生の皆さんの訪問を、学生、教員一同、楽しみにしています。近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。濱村 寿史 記

先進園芸技術開発プロジェクト

(旧園芸作経営プロジェクト)

2024年度の園芸プロの近況報告です。教員については、学生の叱咤激励役を担ってくださっていた梅林先生が2024年3月末に東北大学へ異動されて、現在は4人体制です。学生は3年生7人、4年生7人、大学院生3人の計17人です。野菜、果樹、花の3チームに目を向けると、近年は各チームに所属する人数がばらつくようになりました。特に、花チームの希望者の少なさが目立ち、私(神田)にとつても、魅力的なテーマを新たに設定する等、今後の課題をつきつけられています。 神田 啓臣 記

トピックとして、松風祭

での農産物販売について紹介いたします。一昨年度までは、菜の花祭りでの販売に比べるとお客様も少なく、のんびりした雰囲気でしたが、昨年度と今年度はお客様が急増して、開店前から行列ができ、開店直後には売り切れ続出という、菜の花祭りなみになりました。どうやら近所の人達に口コミで「図書館前でネギやリンゴを安く売っている」と広まっているそうです。卒業生の皆さんも、菜の花祭りや松風祭では在校生の応援に来てもらえたら幸いです。 神田 啓臣 記

酒米生産

酒米生産に取り組んでおり、耕作放棄地が復旧するなど地域活性化の効果が見られます。11月には学生たちが現地の収穫祭に参加し、その酒米で醸したお酒を堪能しました。

4年生は、小規模な6次産業化の意義と課題、農協が運営する農産物直売所の形態別特徴と課題、アンテナショップ運営企業の販売チャネルと事業体制、青果物流通における2024年物流問題への対応(2名)の人の営みを商品とするアンテナショップビジネス、現代社会における「家族」の再評価などのテーマで卒業研究に取り組んでいます。卒業研究のゼミにはOBも参加してくれています。卒業生の皆さんも是非近況をお知らせください。 酒井 徹 記